

# Kaori Nakano

ファッション産業は、石油産業に次いで環境汚染を生み出している産業です。次から次へと「新作」が市場に投下され、大量に購入され気安く捨てられる。生産・流通・消費・廃棄全てのプロセスでのCO<sub>2</sub>ガスの排出や水の汚染が深刻化し、処理しきれない繊維廃棄物が地球環境に負荷をかけています。

その危機感のもと、8月にはフランスで、マクロン大統領の働きかけにより、ファッショントテキスタイル関連32社が気候・生物多様性・海洋に対して協力して実践的な目標を達成する「ファッション協定」を結んだことが発表されました。

この効果は絶大で、9月中旬にパリで開催されたファッション素材の見本市では、「サステイナビリティー認証がないと買わない」という有名ブランドの姿勢が報道されました。持続可能性は「セクシー」な（一）トレンドなどではなく、本腰を入れて取り組まねばならない切迫した課題になつていのです。

折しも、見本市とほぼ時を同じくして、ニューヨークでは、スウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥンベリさんが議会や国連で演説をおこないました。グレタさん

は昨年9月に、スウェーデン議会前で「気候変動問題のための学校ストライキ」をおこなったことで有名になった16歳の高校生です。政府に対し、CO<sub>2</sub>ガス排出量を削減することを要求して、総選挙まで学校に通わず抗議のプラカードを掲げ続けたのです。運動は世界中に波及し、「グ

中野香織

## ファッション歳時記 97

### プライベートジェットで来て 環境を語る愚行

ました。彼女を嘲笑する声もあります。妨害をするのは利権を守りたい老境に近い男性であるのは、いつの時代も同じです。

少なくとも、彼女と、彼女を支持するZ世代の義憤には、大人が真剣に耳を傾けるべきだと思わせる力があります。9月23日の国連気候行動サミットでは、強い語調で「私たちは絶滅の始まりにあるというのに、あなた方が話すのはお金や経済成長のことばかり」と怒りをぶつけました。実際、1月におこなわれた経済フォーラムでは、気候変動枠組条約締約国会議であるというのに、1500機ものプライベートジェットでの参加があったといえます。CO<sub>2</sub>を無駄に排出しながら環境問題を語る大人の滑稽さ。

各国の指導者の身勝手や各界重鎮の鈍さが目立つ昨今ですが、若者たちのまっすぐな行動に未来の希望を見る思いがします。少なくとも、未来に対して無責任な大人に対して声を上げるZ世代は米議会議員よりよほど勉強しており、宣伝に踊らされるまま消費と廃棄を繰り返す消費者は激減すると思われまます。その前に大人が目覚めないとな。

なかの かおり

1962年生まれ 富山県出身 服飾作家として研究・講演・執筆をおこなうほか、昭和女

